

第9回世界農業遺産勉強会概要

- ◇開催日時 平成28年7月9日(土) 13時～15時
- ◇会場 奈良教育大学 中澤研究室
- ◇参加者 祐岡、大西、山方、中澤
- ◇内容

テキスト：『農業の基本価値』大内力 創森社 2008年
第2章 農産物自由貿易論の誤謬を正す

※自由貿易を多角的に論ずる

(1) 自由貿易論は大国の覇権の論理

- ・GATT：関税および貿易に関する一般協定
理念：再び戦争を起こさないためには自由貿易が必要
実際：大国の論理が通り、実力のない国は一方的な義務
反省：自由貿易は問題が多い。世界の多くの人々の福祉に役立つかを検討する必要がある。
- ・「比較生産性理論」リカード
自由貿易を追求することが国益となる
→ 自由貿易は善で、保護貿易は悪である。
- ・工業生産であろうと農業生産であろうと、自由貿易は輸出強者にとって有利な論理

※地球が有限であるという前提に立つと、無限の経済成長はありえないため、比較生産性理論は成り立たなくなる。

(2) 一次産品貿易の自由化の帰結

※農林業の基本価値を守る立場からは、一次産品の自由貿易の拡大には問題がある。

- ・一次産業は自由貿易に対応しきれない。
プロダクト・サイクル：後進国の方が早く発達して先進国を追い越す
自然という制約があるため、一次産業にはプロダクト・サイクルは成り立たない。
農業は自然条件に適合する中でしか技術的な展開はできない。
- ・日本の農業の特徴
日本は地理的な条件が著しく不利である。
小麦・大豆は日本の自然条件に合わない作物
- ・リカード「比較生産性理論」より
日本の輸出工業の生産性の上昇性と、国内の農業の生産性の上昇率とどちらが高いかということによって決まる
その国で工業生産が優位である限り、農業生産は伸びない(輸入されてしまう)。
- ・自由貿易にすると、日本のほとんどの農業は崩壊する。

(3) 地球環境を破壊する農産物の自由貿易

※一次産品の貿易は個々の国の問題にとどまらない。

①生態系循環が破壊される。

化学肥料に頼る農業は生態循環を破壊する。

自然の循環（栄養素・有機物の循環）がうまくいかない。

生態循環：十分な有機物を農地に補填していくシステム

硝酸濃度を高まりによる井戸水の汚染

- ・農産物貿易による生態系破壊

 - アメリカの土壌侵食の急進展

 - 日本の物量の過剰輸入を原因としたゴミの山、水や大気の汚染

※農産物貿易の拡大は、輸出国にも輸入国にも大きな自然破壊が生じ、地球規模での環境問題が激化する。

- ・ガットを見直せ

規約では一次産品の貿易については、自由化に一定の例外を認めている。

ウルグアイ・ラウンドでのアメリカの非常識の主張

 - 「一次産品貿易の無制限の拡大と、農業保護政策の全廃」

SDは人類の先行きへの見通しにとっての哲学

※世界農業遺産は地域の特性を生かした持続可能な農業

生態循環に配慮した農業

各地の自然環境に即した生態循環を明らかにすることが重要。

生態循環：生態系の中でも特に循環に視点を置くこと